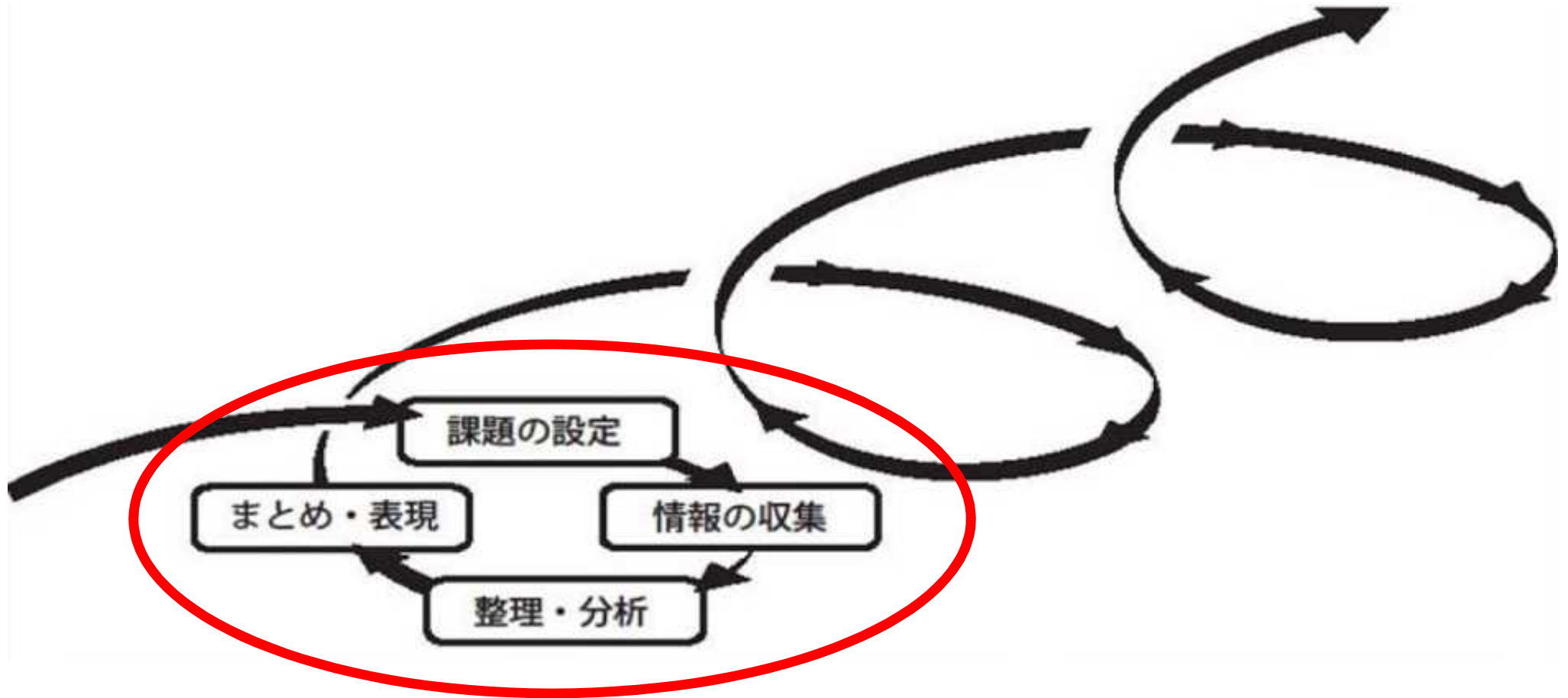


# 総合的な学習の時間 の成果と課題について

# 探究のプロセス



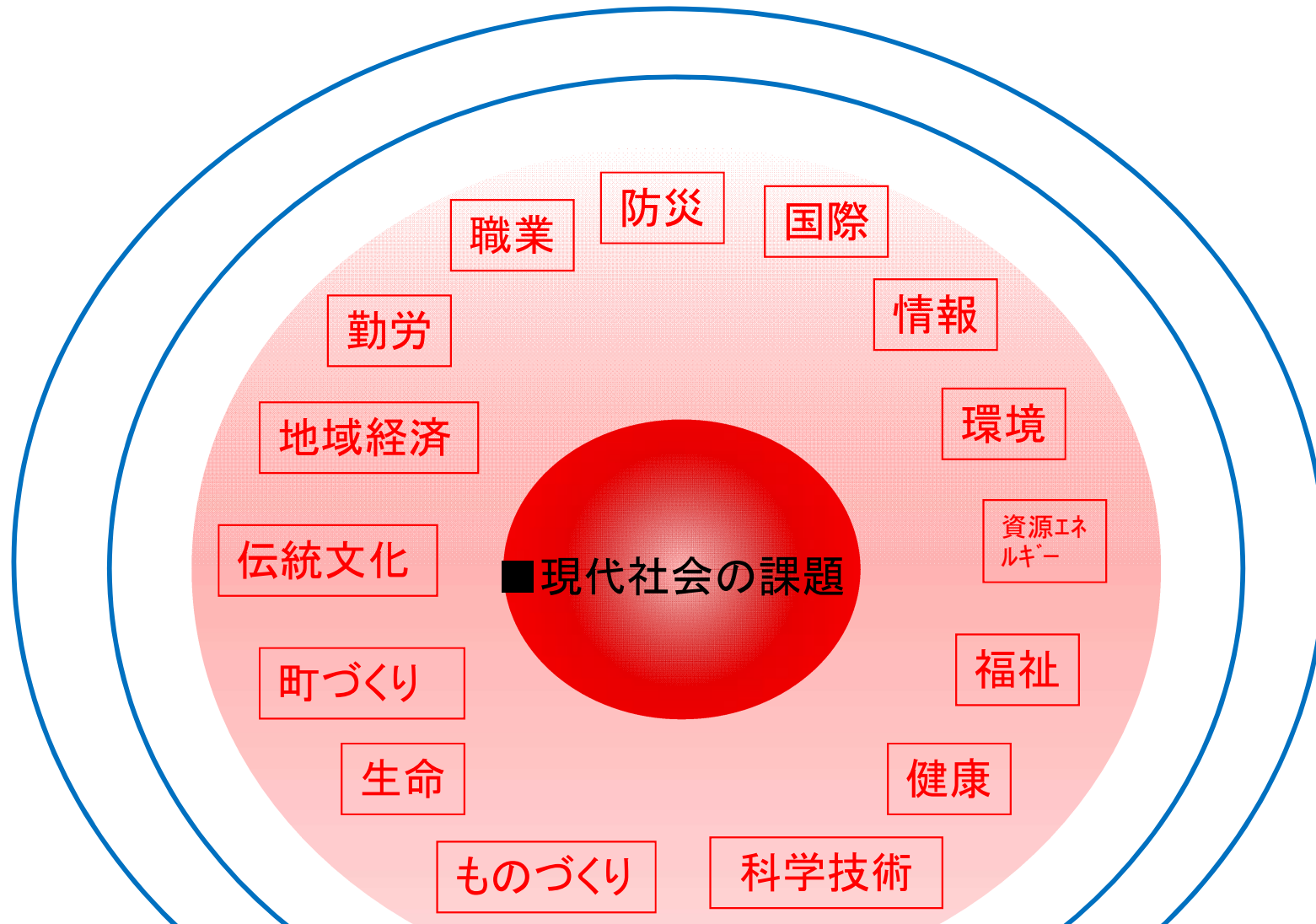
■ 日常生活や社会に目を向け、児童・生徒が自ら課題を設定する。

■ 探究の過程を経由する。

- ① 課題の設定
- ② 情報の収集
- ③ 整理・分析
- ④ まとめ・表現

■ 自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される

# 横断的・総合的な学習



探究課題：例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する課題、地域や学校の特徴に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題など。

# 総合的な学習の時間の成果と課題

## 成果

- 総合的な学習の時間の取組が、知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力の育成の両方につながっている 全国学力・学習状況調査の結果、先進校の取組事例より
- 総合的な学習の時間の取組が、各教科等における探究的な学習の根幹になっている
- 総合的な学習の時間は、PISA調査(OECD)の好成績につながったと国際的にも高く評価 など

## 課題

- **総合的な学習の時間と各教科等との関連が不十分な学校がある**  
総合的な学習の時間における取組と各教科等とどのように関連しているかを意識せずに取り組んでいるため十分な効果が得られていない
- **学校により指導方法の工夫や校内体制の整備等に格差がある**  
総合的な学習の時間の指導方法が個々の教師任せになったり、学校全体で取り組む体制が整っていないなど、学校によって差がある
- **探究のプロセスの中で「整理・分析」、「まとめ・表現」に対する取組が不十分である**  
児童生徒が自分の考えを整理して、それをもとに分析し、分かりやすくまとめ、発表したり発信したりする取組が十分でない
- **社会に開かれた教育課程の実現に向け、実社会・実生活にかかる課題をより積極的に取り扱うことが必要**

など

## <今回の学習指導要領改訂のポイント>

- 各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活における活用や各教科等を超えた学習の基盤となる資質・能力の育成を重視
- 教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるよう、各学校の教育目標を踏まえて総合的な学習(探究)の時間の目標を設定することを明示
- 他者と協働して課題を解決しようとする学習を重視
- 自然体験や職場体験活動(就業体験活動)、ボランティア活動などの体験活動等を引き続き重視 など

**予測がより困難な時代において、教科等で育成した資質・能力を総動員しながら主体的に課題に向き合い、解決していく資質能力を育成**

## 參考資料

# 総合的な学習(探究)の時間設置の経緯

\* 昭和51年以来の研究開発学校等において実践研究。

■ 平成8年7月:中央教育審議会「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」(第一次答申)

■ 平成10年7月:教育課程審議会答申

- ・各学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開できるような時間を確保
- ・社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成するために教科等を超えた横断的・総合的な学習をより円滑に実施するための時間を確保

■ 平成10年12月:小中学校学習指導要領告示(12年4月より実施可、14年4月より全面実施)

■ 平成11年3月:高等学校学習指導要領告示(12年4月より実施可、15年4月年次進行で実施)

■ 平成15年12月:学習指導要領の一部改正(公布日施行、高校は15年4月入学生から適用)

- ・各教科等の知識や技能等を相互に関連付けること
- ・各学校における目標・内容の設定と全体計画の作成
- ・教師による適切な指導や教育資源の活用 など

■ 平成20年1月:中央教育審議会答申

- ・総合的な学習の時間の必要性と重要性の再確認。知識基盤社会において必要な資質・能力の育成に重要な役割を果たすという意義を踏まえ、時間数を縮減しながらも、新たに章立てをするなど位置付けの明確化、横断的・総合的な学習や探究的な学習の明確化を提言

■ 平成20年3月:小中学校学習指導要領告示(平成21年4月～先行実施)

■ 平成21年3月:高等学校学習指導要領告示(平成22年4月～先行実施)

■ 平成28年12月:中央教育審議会答申

- ・探究的な学習の過程を一層重視し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものとするとともに、各教科等を超えた学習の基盤となる資質・能力を育成する。

■ 平成29年3月:小中学校学習指導要領告示(平成30年4月～先行実施)

■ 平成30年3月:高等学校学習指導要領告示(平成31年4月～先行実施)



# 総合的な学習の時間・総合的な探究の時間における教育のイメージ

## 【小学校】総合的な学習の時間

### ◆学習指導要領で示す目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う

◆各学校が設定する目標：上記を踏まえて各学校が目標を定め、各学校の教育目標を踏まえて育成を目指す資質・能力を示す。

< 探究的な見方・考え方 >「各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けること」

## 【中学校】総合的な探究の時間

### ◆学習指導要領で示す目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う

◆各学校が設定する目標：上記を踏まえて各学校が目標を定め、各学校の教育目標を踏まえて育成を目指す資質・能力を示す。

< 探究の見方・考え方 >「各教科等における見方・考え方を総合的・統合的に活用して、広範で複雑な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の複雑な文脈や自己の在り方生き方と関連付けて問い続けること」

## 【高等学校】総合的な探究の時間

### ◆学習指導要領で示す目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う

◆各学校が設定する目標：上記を踏まえて各学校が目標を定め、各学校の教育目標を踏まえて育成を目指す資質・能力を示す。  
→各学校の教育目標に直接つながることから、その高校のミッションを体現するものとなるようにする

各教科等

各教科等の見方・考え方を、総合的な学習（探究）の時間に活用（統一的）に活用

各教科等の見方・考え方が、多様な文脈で使えるようになるなどして確かなものになり、「深い学び」を実現

## 目標・内容の設定及び時数、単位数

### 第1 総合的な学習の時間の目標 (小中学校の場合)

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

### 第2 各学校において定める目標及び内容

#### 1 目標

各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の目標を定める。

#### 2 内容

各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の内容を定める。

#### ■時数、単位数

- ・小学校3～6年生：各70時間
- ・中学校1年生：50時間、2・3年生：各70時間
- ・高等学校：3～6単位

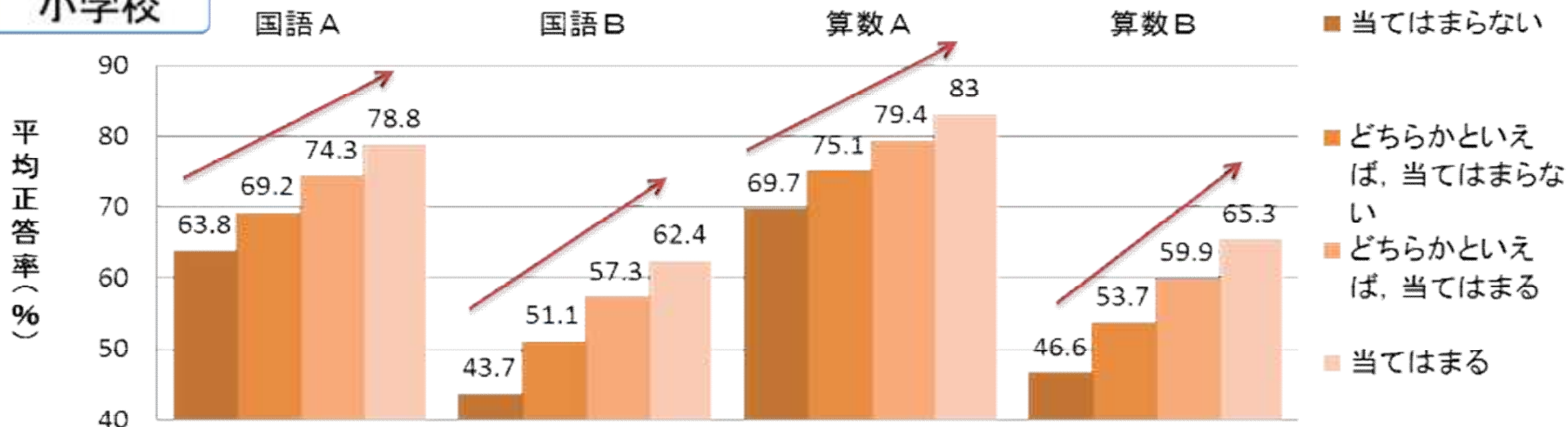


# 平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果から

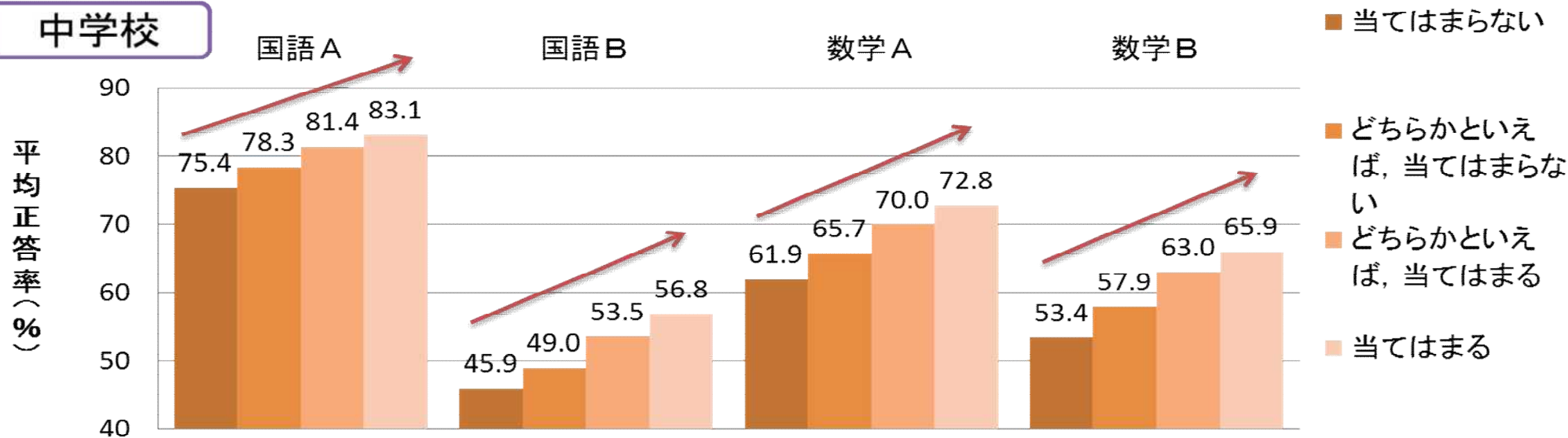
総合的な学習の時間に積極的に取り組んでいる児童・生徒ほど教科の平均正答率が高い

児童(生徒)質問紙(40):「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」

## 小学校



## 中学校



## ■PISA2012調査報告書(PISA2012 Results:Creative Problem Solving – Students’ Skills in Tracking Real-Life Problems-)より

「…日本はPISA2012調査において全ての教科でトップかトップに近い成績を収めているが、問題解決についても例外ではない。…この問題解決のスキルの育成は、教科と総合的な学習の両方において、クロスカリキュラムによる生徒主体の活動に生徒が参加することによって行われているものである。…カリキュラムと授業をより子どもの関心を引く学習に変えようとする日本の継続的な取組は、PISAの良い成績を生み出しただけでなく、2003年から2012年にかけての生徒の学校への帰属意識や学習の姿勢の顕著な改善という結果を生み出している。」

## ■中等教育資料(平成26年5月号) OECD教育局長 アンドレアス・シュライヒャー氏寄稿

「…日本では、従来から総合学習が行われています。日本の全国学力・学習状況調査によれば、総合学習が子供たちの意欲関心の向上に役立っているなど総合学習の様々な成果がみられたと聞いています。このような子供の自主的な活動に着目した学習の今後の発展を楽しみにしています。」

## ■OECD教育局長 アンドレアス・シュライヒャー氏インタビュー記事(H29.8.11読売新聞)

「過去15年の日本の学力向上は、総合学習の成果だと考えると説明がつく。そして、シンガポールや上海では、総合学習のような探究的学習を日本以上に優先してやっている。」

「日本の新しい学習指導要領では関連づける学びが重視され、総合学習は重要な手段となる。だが、実施するのは大変だろう。準備にも授業にもこれまで以上に時間がかかるからだ。」

## ■OECD協働問題解決能力調査の結果に対するコメント記事(H29.11.22毎日新聞)

「2位という結果は、学校の総合学習などで問題解決能力を育む課題探究型の学習に取り組んだ成果だ。」